

1. 主な研究内容について

私たちの研究グループでは認知症、高次脳機能障害、統合失調症を対象として、評価・介入技法、運転支援方法の開発について臨床研究を行ってきました。主に次の研究課題としてグループで取り組んでいます。

- 1) 認知症の認知機能障害、日常生活活動、行動心理学的症候、QoL、生活リズムの評価・介入について
- 2) 脳血管障害や頭部外傷などの器質的損傷による高次脳機能障害の評価・介入について
- 3) 就労支援のための精神疾患を持つ方に対する生活リズム評価・介入について
- 4) 障がい者・高齢者への新しい運転支援に関する評価方法の開発

2. 主な共同研究先

株式会社介護サプリ、大阪市城陽地域包括支援センター、大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室、大阪大学大学院薬学研究科、鹿児島大学、森ノ宮医療大学、奈良学園大学、さわかみ病院、伊丹せいふう病院、友誼会総合病院、京都市民連あすかい病院、琴の浦リハビリテーション病院、協和会病院、岸和田リハビリテーション病院、東香里病院、大阪府急性期・総合医療センター、NPO 法人日本学び協会 就労移行支援施設 ワンモアなど

3. 今まで指導した学位論文名

〈修士論文〉

2020 年度：半側無視の気づきに関する検討

2022 年度：自動車運転支援における停止車両評価の臨床的有用性の検討

2022 年度：認知症者における行動心理症状と認知機能、日常生活活動との関連性の検討

4. 主な論文

- ・ [Tanaka H, Umeda R, Nagata Y, et al. \(2022\): Clinical Utility of an Assessment Scale for Engagement in Activities for Patients with Moderate to Severe Dementia; Additional Analysis, Psychogeriatrics, 22\(4\), 433-444. \(原著論文\)](#)
 - ・ [Tanaka H, Umeda R, Shoumura Y, et al. \(2021\): Development of an Assessment Scale for Engagement in Activities for patients with Moderate to Severe Dementia. Psychogeriatrics, 21\(3\): 368-377. \(原著論文\)](#)
 - ・ [Leung S, Tanaka H, Kwok T. \(2021\) : Development of Chinese Version of Quality of Life in Late-Stage Dementia and Cognitive test for Severe Dementia. Dementia and Geriatric Cognitive Disorder Extra, 10\(3\): 172-181. \(原著論文\)](#)
 - ・ [Tanaka H, Nagata Y, Ishimaru D, et al. \(2020\) Possibility of Cognitive improvement in severe dementia: A Case Series assessed by Cognitive Test for Severe Dementia. International Journal of Gerontology, 15\(2\): 174-176. \(事例報告\)](#)
 - ・ [Ishimaru D, Tanaka H, Nagata Y, et al. \(2020\) Impact of disturbed rest-activity rhythms on activities of daily living in moderate and severe dementia patients. Alzheimer Disease & Associated Disorders an International Journal, 35\(2\): 135-140.\(原著論文\)](#)
 - ・ [Tanaka H, Nagata Y, Ishimaru D et al. \(2019\) Clinical factors associated with activities of daily living and their decline in patients with severe dementia. Doi: 10.1111/psyg.12502.\(原著論文\)](#)
- など、他多数

5. 現在の指導している大学院生数

M1：1名、M2：2名

6. どのような大学院生の受け入れを希望するか？

当ゼミでは国内だけでなく国際的水準に合わせた研究を進めます。また、研究グループに所属する大学院生・研究員の皆さまは、ご自身の臨床現場でデータを収集されている方です。対象者（患者様・利用者様）に反映できる研究をしたいと考えられている「熱心で高い志のある方」「自発的・自主的に行動できる方」「粘り強く研究を続けることができる方」を募集します。経験年数は問いませんので、我々とともに成長できる方を受け入れたいと考えています。ゼミは、認知症、高次脳機能障害、運転支援、精神疾患等に関する英語文献の抄読会を中心に、その他に研究計画、学会・論文発表前には個別ゼミ、少人数ゼミ、適宜オンライン・オフラインなど目的に応じた形で行っています。